



桑井 世界に衝撃を

サクララセブンス

女子7人制ラグビー リオ五輪代表

リオ五輪の日本代表に選ばれ笑顔でガッツポーズを見せる桑井亜乃(後列右から3人目、大賀章好撮影)

「ここにいられる幸せを感じる」
記者会見場でカメラのフラッシュを浴びながら、桑井は言った。「代表に選ばれ、ここにいられる幸せを感じる。オリンピックという最高の舞台で結果を残して恩返しをしたい。ラグビーの競技歴はずか4年ながら、幼いころから取り組んできた陸上やアイスホッケーでも憧れ続けた夢舞台。支えてもらった多くの人を思い描き、表情を引き締めた。

女子7人制ラグビーの桑井亜乃(アルカス熊谷立正大学院、中京大、帯農高、幕別中、幕別小出)が初の五輪へ挑む。目指すは金メダル。チームは昨年のワールドカップで活躍した男子15人制代表に続き、世界に衝撃を与える覚悟だ。
(松村智裕)

陸上とアイスホッケーで培ったパワー、長身武器

「自信を持って臨む」

チームが掲げる目標は五輪での金メダル。その道のりの険しさは選手たちが肌身で実感している。日本が初出場したワールドシリーズ全5戦(昨年12月〜5月)の総合順位は14チーム中11位。五輪で同じ組に入ったカナダは3位、イングランド(五輪は連合チームのイギリスとして出場)は4位と格上だ。ブラジルは10位ながら地の利があり、いずれも厳しい戦いになることは間違いない。

ただ、桑井は5月のカナダ戦で2トライ、2月と4月のイングランド戦でそれぞれ1トライを奪取。チームは敗れたものの、身長171センチとチーム最長身の桑井が屈強な外国人選手相手に

くわい・あの 1989年10月20日幕別町生まれ。幕別小、幕別中、帯農高、中京大を経て、立正大学院修了。大学卒業までは陸上競技選手で帯農高2年時に国体の円盤投げで5位。アイスホッケーも高校3年までプレーし、幕別少年団御影クレツズに所属した。昨年4月から埼玉県熊谷市の八木橋百貨店に勤務。クラブチームはアルカス熊谷。171センチ、67キロ。

【選手団メンバー】
【女子】兼松田香(名古屋レディーズ) 竹内亜弥(アルカス熊谷) ◎中村知春(同) 加藤慶子(世田谷レディーズ) 桑井亜乃(アルカス熊谷) 山口真理恵(ラガール) 福田真紀子(世田谷レディーズ) 横尾千里(東京フェニックス) 谷口令子(アルカス熊谷) 中丸彩衣(同) 大黒田裕芽(立正大4年) 山中美緒(同3年) 小出深冬(東京学芸大3年)
【男子】副島亀里(ラポウ・ラティアナラ(玄海タンガロア) 山田章仁(パナソニック) ◎桑水流裕策(コカ・コーラ) トウキリ・ロテ(クボタ) 坂井克行(豊田自動織機) レメキ・ロマン・ラウア(ホンダ) 彦坂匡克(トヨタ自動車) 羽野一志(NITコム) 後藤輝也(NEC) 徳永祥晃(東芝) 福岡堅樹(パナソニック) 合谷和弘(クボタ) 藤田慶和(パナソニック) 松井千士(同志社大4年)
※◎が主将。

守のカギを握っている。今回のメンバーは昨年のアジア予選を戦った選手が中心となった。中村知春主将(アルカス熊谷)は「夢

を追いかけた全ての仲間の思いも一緒に、オリンピックでは台風の目となって戦いたい」と力を込めた。クオフまで37日。「自信を持ってフィールドに立ちたい。今までの思いを込めて笑顔でオリンピックに臨む」と桑井。「まるで家族のように」と話す愛着あるサクラセブンスの仲間と共に、分厚い世界の壁に風穴を開ける。

仲間と笑顔で 最高の舞台へ

女子7人制代表は本格的な強化を始めた2011年から国際大会で計223試合を戦ってきた。29日の記者会見で浅見敏子ヘッドコーチは「あすで代表としての活動は1060日になる」と5年間の蓄積を語った。パワーのある海外勢に走り勝つため、年間2000日近くをスピードと持久力向上のための過酷な練習に費やしてきた。五輪切符を勝ち取った昨年11月のアジア予選以降も成長を続けている。

大会初戦8月6日のキツ